

朝日中学校だより

笑顔あふれるあたたかい学校

令和2年5月13日発行



【教育目標】 進んで学び、豊かな心をもった、たくましい生徒

「五月の風によせて」

校長 木ノ瀬隆幸

風薫る五月といいますが、一年で最も心地よい季節を迎えました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。GW中は朝日地区の各所で田植え作業をしておいでの方と出会いました。昨年見ることのできた、家族総出の田植えの様子を見ることはできませんでした。実りの秋を迎えるまで、農家の方々は毎日のように田んぼの様子を確認に行かれると思います。手間暇かけて愛情を注ぎ、美味しいお米ができます。生産者の方々に感謝です。

さて、4月30日に、体育主任W先生と数名の先生方と一緒に、新しい全校ウォークの経路の下見をしました。この活動は平成19年度に学年別登山から変更されたものです。これまでは猿沢から柏尾に抜ける山沿いのルートで全行程30Kmでした。全国でも珍しい起伏に富んだコース設定でした。それを前任の野澤先生が、あさひ駅伝のコースを参考に、朝日地区をよく知ってほしいという願いから、リニューアルしました。ルートは、学校～あ

げぼの団地～布部～黒田～関口～早稲田～猿沢～宮ノ下～水明橋～下新保～岩沢～学校までの29Kmです。朝8時40分に出発し、午後1時30分に道の駅あさひでお弁当を食べました。休憩中、1羽のカラスがW先生のリュックとバインダーに糞を落としたのは、私が食べ物を与えなかったはらいせだったのでしょうか。その後、向かい風に耐え、午後3時50分に学校に到着しました。全行程を歩ききって、体は悲鳴を上げていましたが、心は爽快感でいっぱいでした。歩きながら、先生たちと教育、趣味、集落の特徴、道ばたの野草やカエルの種類等、いろいろな話をしながら歩きました。歩み続ければいつか必ずゴールに到着します。マスクを着けて歩くことは、想像以上に大変でした。最後までマスクを離さなかったW先生はさすがです。私の筋肉痛は1週間続きました。



歩いている最中、小学校4年の夏の頃の事を思い出しました。母の実家の下新保で従兄弟と遊んでいて、普段は優しい祖母から私の非を指摘されました。頭にきてそのまま黙って家を飛び出し、村上市役所近くの自宅まで約10Kmを歩いて帰りました。祖母は集落のあちこちを探して、たいそう心配したそうです。家に帰ると母と父にその行為について厳しくとがめられました。相当反省したはずですが、実はその詳細を忘れていました。人の頭脳は自分の都合の良いことだけ覚えているのかもしれない。祖母が亡くなって随分経ちますが、いつも出勤時にはお墓の脇を通る度に自分の非礼を詫びています。

4月16日から5月6日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業でした。本校では昨年度予定していた1年間の学びを振り返る業者テストが未実施でしたので、自分で計画を立てて1年間を振り返ることを目的に、休み中に特別な課題を与えませんでした。「自律する生徒を育てる」ことを令和元年度の重点としていましたが、今年も同じです。今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3密防止を含めて、全力で取り組んで参ります。皆様のご協力を賜りたいと思います。



大会は中止…。しかし、今できることを

今年度、県総合体育大会と下越地区総合体育大会の中止が決まりました。2, 3年生には校長先生から、1年生には担任から全員に伝えました。2年間、部活動に取り組んできた3年生は特にショックが大きかったようで、下を見てうなだれる生徒も見られました。これまで大会を目標に取り組んできた生徒にとっては、非常に辛いお知らせだったと思います。新しい目標設定をすぐに行うことは難しいけれど、命を守ることを一番に考えての決定です。この困難をみんなで乗り越えて、一段とたくましく成長することを願っております。

生徒達にとっては辛いことがたくさん起きていますが、そんな中でも、学力検査に懸命に取り組んだり、授業を真剣に受けたりするひたむきな姿が見られます。その姿に大人の方が勇気づけられているような気がします。今、自分にできることにしっかりと向き合ってほしいと思います。



間隔を保って授業に向かう生徒達

シリーズ 私の青春時代

第1回

「シリーズ 私の青春時代」、今年度も連載していきます。何が出るかはお楽しみです。
令和2年、第1回は教頭の鈴木昭俊先生です。

子どもの頃から体力自慢を目指しています

教頭 鈴木昭俊



中学3年



現在

今回、朝日中学校で社会科を教えることになった。実は今まで20年以上小学校で体育を専門としてきた。小学校から中学校へ、体育から社会科へ、新鮮な気持ちでいる。

体育教師になりたかったのは、小学校4年の担任の影響である。私は小学3年まで喘息のために泳げず、運動ができることに憧れていた。担任のH先生に指導されて、10mも泳げなかったのに4年の夏の終わりには50m泳げるようになった。泳ぎ切った時に世界が変わって見えた。5年では1000m泳ぐことができた。あの時の感激を、子どもたちに伝えたくて教師をやっていると言ってもいいくらいである。

小中高とバスケットボール部に所属した。なかなか活躍はできなかったが、レギュラーになることを夢見て練習を続けた。高校では1番に入部し練習を続けたが、好戦的な性格なせい、すぐファールをしてしまいレギュラーには程遠かった。

「どうせなら派手にぶつかり合うスポーツの方が向いているのでは？」と思い、大学ではボクシングを始めた。格闘技の方が性に合っていた。今までパワーを全開にしてボクシングにのめりこんだ。トレーニングがきつければきついほど、満足感を感じるようになった。ボクシング部を指導したかったが、小学校、中学校ではボクシングを教えることができないので、部活や課外体育でスポーツを教えたいと考えた。

スポーツすることは一生涯続けたい。初めて泳げた時のような気持ちよさを、また感じられる日があればいい。同じような経験を子ども達にも与えていきたい。

お詫び 4月号で1学年担任の名前に誤りがありました。大変失礼いたしました。

正 中山 敏雄

誤 相馬 敏雄